

かわら版

集落支援員だより



「岩代地区女性防火クラブの存在を周知し、活動を広げて女性同士の交流の場にしたいです」

岩代地区女性防火クラブの会長を務める三浦きぬ子さんに、岩代女性防火クラブの歴史や活動内容についてお話を伺いました。また、現在の課題や今後の抱負などについても思いを語っていただきました。



▲岩代地区女性防火クラブ会長の三浦きぬ子さん

Q 女性防火クラブとは？

女性防火クラブとは家庭における火災予防に関する知識の習得、地域全体の防火意識の高揚などを目的として活動している組織です。



▲人工呼吸も習います

昭和三十七年四月、消防庁長官からの通達を受け、女性の社会参加の一環として、前身となる「婦人防火クラブ」が全国で組織されました。岩代地域では、各自治会から一人推薦いただき防火クラブ員として配置し活動しています。

Q 主な活動内容について

総会や役員会などの他に主な活動として挙げられるのが、十月の秋季検閲、十一月の一人暮らし高齢者世帯防火診断、三月の普通救命講習会です。また毎年春と秋の火災予防週間には、防火パレードが行われ、女性防火クラブからも数名が参加しています。

昨年「火の用心」ののぼり旗を作り、各自治会に配付。春秋の全国火災予防週間に合わせ各自治会にのぼり旗を掲げ、防火意識の高揚、予防啓発に努めています。

岩代地区女性防火クラブ 今後の活動予定

◆11月 秋の全国火災予防週間に合わせ、各自治体にのぼり旗を掲げます。

◆11月9日(木) 二本松市防火パレード 市内をパレードするとともに各地区内の幼稚園等慰問し、紙芝居で予防啓発を行います。

◆11月12日(日) 秋の全国火災予防運動防火パレード 毎年3月と11月の火災予防週間に防火パレードが開催され、3地区の防火クラブ員も消防車両に乗り、予防啓発を呼びかけます。

◆11月中旬 一人暮らし高齢者等世帯防火診断 一人暮らしの高齢者等のお宅を消防署員と一緒に訪問し、警報機の設置や暖房器具や火の元など危険箇所がないか等診断しアドバイスします。



▲防火パレードの出陣式は岩代支所で行われます

今年ものぼり旗を追加し配付する予定です。

Q 課題や今後の抱負について

いざ活動を始めてみると、法被(はっぴ)等の貸与品の引継ぎがされずいつから無いのかわからない状況や「防火クラブの活動が見えない」「何もすることは無いので名前だけの参加でよいと言われる」等の話が聞かれたため、会員一人一人の話を聞く必要があると感じ、昨年より各地区で懇談会を開催しました。「高齢になり歩くのも不自由なのに何歳までやればいいのか」とか「子育てが忙しく活動に参加できない」等のリアルな声を聞くことができ大変有意義でした。今後も継続し



▲「火の用心」ののぼり旗を各自治会に配付

ていきたいです。

岩代地域でも少子高齢化と人口減少が加速している現在、地域における支え合いのネットワークづくりの重要性を痛感しています。せっかく女性防火クラブという組織があるので、今後は会員の皆さんが楽しんで参加できる活動を企画していきたいです。女性同士の交流を通して、岩代をより元気にしていけたら嬉しいですね。最後に、令和六年四月から女性防火クラブ員が変更となります。各自治会から一名推薦いただく際、年齢や体調などそれぞれの事情をよく確認し推薦いただきますようお願いいたします。



▲地区懇親会を開催

岩代各地で秋祭を開催！魅力あるシーンを紹介します

小浜・紋付祭

200年の伝統を誇る紋付祭。本祭に行われる「御神輿渡御（おみこしとぎょ）」では太鼓や笛のお囃子が響く中、紋付羽織袴姿の氏子が町内を練り歩きます。



↑紋付と羽織袴姿の行列は壮麗で絵になります。

→四町それぞれが御輿を前にお祓いを受けます。



↑四町の山車が交差点で出会います。

去る十月七日・八日、小浜、百目木、茂原、田沢の各地区で秋の例大祭が開催されました。「昔ながらの祭があるから固い絆が生まれ、地元愛が育まれる」。そんな印象を受けた熱気溢れる二日間。ほんの一部ですが、印象に残るシーンを紹介します。

百目木・御神輿&太鼓台

百目木八幡神社の例大祭。8日の午後は、御神輿と太鼓台引き回し、夜は抽選会や花火大会が行われました。

←御神輿と太鼓台の行列が、半日がかりで全自治会を回り、祈祷やお祓いをしました。



田沢・三匹獅子

田沢の秋祭の初日は、日山神社へ三匹獅子舞の奉納に始まります。御神体や太鼓を担いで約1時間ほどかけて登りました。



↑山頂では12種類の三匹獅子舞を2回奉納。時折の小雨にも負けないパワフルな舞姿でした。

→名目津温泉で三匹獅子舞を披露。入浴客も足を止めて見物していました。

茂原・三匹獅子

茂原の秋祭でも神様を日山に送り届け、豊作の感謝とともに三匹獅子舞を奉納しました。



←名目津温泉では、田沢三匹獅子との合同門打ちで商売繁盛を祈願しました。

↑山頂にある茂原・田沢・葛尾の三社では、お互いに挨拶の舞を奉納していました。



◆図版「戦国期の百目木城周辺図」

七 弾正と政宗
天正十四年（一五八六）十月九日、戦国期の勇将三春城主田村清頭が死去した。ここから石川弾正光昌と塩松の歴史が大きく変化する。それは塩松における弾正の動静が、伊達氏の重要な観察対象になっていくことを示している。
天正十五年六月、極秘情報宮森城白石宗実から政宗に届いた。
①清頭亡き後の田村家中が分裂（相馬派と伊達派）していること
②「イ」（石川弾正）が相馬に内通しているとの噂があることから、人質をとるべきか否か、を問うものである。
天正十六年正月十六日、弾正は米沢に参上した。正式に政宗の家臣となり鷹の足緒（足尾）下賜された。
ところがこの後、元小浜城主大内定綱は、かねてから念願の伊達家への再奉公を許された。弾正にとつてこの事態は正に青天の霹靂であり、承服できかねることであったと想像される。
同三月十二日、弾正、川俣、刈松田等が伊達氏に反旗を翻すとの報告があったが、政宗はすぐにはこれを信用しなかった。
しかし、同十六日には一転して、弾正から人質を取るようにと片倉小十郎に指示している。

岩代の歴史シリーズ

両属の将 石川弾正の生涯 ⑦

石川弾正顕彰会事務局長 日下部 善己